

## 坂本さんの話

その後、面接に行き、訪問販売の仕事を見つけました。14000円の商品をお客さんの家に行き、その日のうちに現金でもらったら、5000円が自分の取り分なんです。16才から始めて最終的に25か6才くらいまでやってたんじゃないですか。それが一番長いことやってた仕事です。最後の方は友達と独立して、お金出し合って、共同経営みたいな感じでやってたんです。

ただ、ぼくは平気でウソをつけるタイプじゃないしね。訪問販売で買ってもらおうと思ったら、ある程度平気でウソをつけないとダメなんですよ。ぼくはためらって顔に出たりするんです。それと訪問販売で、押しが一番必要なんです。最後のところで「奥さん、これもういっときましょ！」と言って押しがなかったら売れないんだけど、性格的にそういうのができなくて。

それで、最終的にそこをやめて、土木作業の仕事をやりました。

(生田) 坂本さんがどのような生き立ちだったのか、少し分かったと思います。その坂本さんが、どうして野宿をするようになったのか、聞いてみましょう。

土木の仕事で最初に行ったのは、西成の日雇いの仕事です。「渥美組」っていうところで水道屋の穴掘りした。水道管を埋める深さ7~80センチの穴をスコップで掘って、かたいところはツルハシで、もっと硬いところは電気でチッパーで穴掘りしていくような仕事。そこは仕事は2週間くらいでなくなって、あとは1か月とか3か月とか、長いとこやったら半年くらいとか、いろいろ仕事に行っていました。鉄筋コンクリートに火事の時に鉄骨が熱で曲がったりしないように吹き付けをする仕事とか。

野宿になったのは2002年の6月かな。それまでは日雇いの仕事行ったり、ときどき工場の請負の仕事に行ったりしてただけど、1998年くらいかな、ものすごく仕事が減ってきた。朝「あいりん総合センター」に仕事をさがしにいっても、とにかく全然ない。手持ち500円しかないし、どうしようってなってるね。

(生田) この1998年ごろ、日本全国が不況になって、坂本さん以外にもたくさんの方が仕事なくなって、公園や道で野宿をする人が増えていました。ぼくたちが夜まわりしていると、この頃から、それまで「会社員」「自衛官」「調理師」などの仕事をしてきたたくさんの方がどんどん野宿になっていました。

家賃も払えなくなって、7~8か月くらいためてたんですよ。家賃もたまりすぎたし、電気の配線が漏電かなんかで故障して、電気もつかない状態になって。アパートのなかでこっそりと物音立てないように暮らしてるじゃないですか。気分が滅入ってきてね。それで、大家さんに「すみませんでした」「出ていかせてもらいます」と置き手紙を書いて、着替えだけ持って出てきたんですよ。2002年の6月30日でした。

その日は雨でね。マンションの前を通りかかったら、おばあさんが使うキャリーカーが捨ててあったんです。それを拾って、それでアルミ缶拾いを始めました。それまでアルミ缶とか集めてる人を見ていたから、ひょっとしたらなんとか生きていけるんじゃないかなと思って。

(生田) 坂本さんの住んでいたアパートの大家さんは、親切に何度も家賃の支払いを待っていてくれました。でも、そういうことが何度か続いて、坂本さんは大家さんに「申し訳ない」という気持ちになってしまったのです。

最初の晩は、一晩中空き缶を集めましたよ。ずっと自販機とか探しながらアルミ缶集めて、一個一個足でつぶして。最初は、自動販売機がいっぱいあるあたりをずっとウロウロしてました。回ったことがないから、いつも回ってるおっちゃんに「勝手に取るな」とか言われたり。大体あれ、誰かが回った後に回ったら全然ないんですよ。それも知らずに回ってましたね。一個一個ためて1日15時間くらい回って7キロか8キロくらいでした。その頃は1キロ100円だから、それで700円。4~500円たまったら食費にしてみました。

次の日はどこで寝たのかな。あべの区役所の入り口の横んところで寝たんじゃないかな。「ここで寝るな」って札が下がってたけど。ダンボールもなにもなしで寝て、下のコンクリート痛いから、なかなか寝られない。大きい病院の前に公園があって、そのベン

### 坂本さんの話

ちで寝ることも多かった。あとは長居スタジアムのひさしの下。やっぱり部屋のたたみの上ほど寝れないよね。それでも、キャリーカー引っぱって一日中歩いてるから、結構疲れてるじゃないですか。だから、夜になったらちゃんと寝てみたいですね。

着るものも着替えが1組しかなかった。お風呂はもうあんまり入ってなかったですね。いちばんよく行ったのが長池公園の身障者用のトイレでね。夜の12時か1時くらいに行ったら、近所の人がないじゃないですか。中で体洗ったりしていました。

(生田) 坂本さんは、一日空き缶を集めても700円くらいです。お風呂屋は380円くらいかかりますから、食べるだけで精一杯で、なかなか行けなかったのです。

襲われたこともあります。最初は、8月ぐらいにバスの停留所のベンチで寝てたとき、夜の12時ぐらいに、スーツ姿の若いやつから突然2発くらい蹴られたり。開いてる缶コーヒーの半分以上入ってるのを投げつけられたり。それと、天王寺のあたりでキャリーカー引きながら歩いてたら、カップルの男の方に後ろから蹴られたりとか。汚いやつが歩いてるから、わしが強いとこを見せたからちょっと蹴りを入れたる、そんなかんじだったんです。倒れて振り向いたら、笑ってたんですけどね。そんなんは、野宿しとったら誰でも経験あるんじゃないかな、おそらく。

ある日、住吉区の公園のベンチで寝たら警官が来て、「ここで寝るな」って言われたんですよね。多分近所の人から苦情が入ったんやと思うけど。「ここは人が寝るところやないから、ここで寝るな」って言ってね。そこもいられないようになった。その後、「あべの区民センター」でよく寝るようになったんです。11月ごろになってきたら、だんだん寒くなってくるじゃないですか。ぼくはわからんからダンボールハウスの組み立てを見よう見まねでやってたら「兄ちゃんこないするんや」「ドライバーで穴開けて、ナイロンひもをこうしてくくったらええで」って他の人が教えてくれて、それからそこで寝るようになったんです。そこは、多いときは50人くらい寝ていました。

でも、区民センターも2003年の1月15日までに出てくれということになってました。その2週間ぐらい前に、「工事するから出て行ってくれ」という張り紙が出てね。どっか行き場所探さなあかんああって、みんなそれは考えますよね。一緒に野宿してたおじいさんが、長居公園に行って「5人ほど、なんとかテント張らせてくれないか」って、公園に前からいる人たちに頼んでくれたんですよね。で、おじいさんが「坂本くんも行かないか」って言ってくれた。それで長居公園に行くことになったんです。

長居公園では、最初行ったときからテント作るのにもみんないろいろ協力してくれて。どっかからトラロープとか拾ってきてくれて「これ使たらええよ」とか。古いブルーシートとか下に敷くベニヤとか材木とかあるじゃないですか、「これ使ったらええで」とか、いろいろ世話になりました。

長居公園でテントを作ったら、昼間でも帰るところがあるっていうだけで天国だったですよ。小屋じゃなくて、ブルーシートのほんまに粗末なテントですよ。梅雨時なんか、水がついて、内側ナメクジだらけになるんですよね(笑)。ナメクジと格闘しながら暮らしていたんですけど、やっぱり帰るところがあるっていう安心感が全然ちがいますね。だって区民センターの前は、昼間は帰ろうと思っても居ようがないからね。

だから、路上を転々とするのと、粗末なテントでも、曲がりなりにも一定の場所に帰るところがあるというのは決定的に、精神的にも全然ちがいます。

(生田) 野宿をしていると、仲間どうしで助け合うという話をよく聞きます。坂本さんも、ダンボールハウスの作り方を教えてもらったり、公園に誘ってもらったりと、他の人からいろいろ助けてもらっていたのです。

そして、野宿している人がよく言うのですが、「テント」と「ダンボールハウス」は全然ちがいます。テントは荷物も置けるし、坂本さんが言うように「帰るところがあるっていう安心感」があるそうです。

長居公園では死ぬ人もいました。ぼくのいた7メートルくらい横のところにテントがあって、2003年の11月の終わりぐらいかな、長居公園にいた山本さんが「何か変なおいする」って。それで中をのぞいたら、「死んでる」って。テントの中で餓死してたんですよ。半分腐乱死体みたいになっとったんです。だんだん体が弱って行って、助けを求めすることもできなくなってたんですよ。

若い人が、ぼくらがいつも使ってる長居公園のトイレの取っ手にひもをかけて首をつ

### 坂本さんの話

て自殺してたっていうのもありました。その子はまだ23か4才ぐらいって言ってました。多分、住むところがなかったんやろね。たまたま長居公園の炊き出しに来てたらしい。やっぱり住む場所がなくて精神的に追いつめられてたのかなと思うんですよ。

ずっとぼくらを軽蔑して生きてきた人のなかには、不況で仕事を失って、例えば自分の会社が倒産したりして、ホームレスになるくらいやったら首をくくった方がましって思っている人がいると思うんです。ぼくは安定した住む場所をちゃんと世話したら、それだけで自殺しようという気持ちがおさまる人がたくさんいると思うんです。だからぼくは、住む場所だけは、もうどんな粗末なところでもいいから、ちゃんと国が面倒を見るべきと思うんです。

長居公園にいたのは行政代執行（市が行なう追い出し）の2007年の2月5日までです。そうなったのは、2007年に長居公園であった「世界陸上」（国際陸連陸上競技世界選手権）の関係です。大阪市は、テント村みたいな見苦しいものは、世界中から来る人に見せられないと思ったんじゃないかな。追い出されるぞっていうのは2006年の10月ぐらいから長居公園のみんなの中で話がでていたみたいですが。追い出される前に、自分から公園を出ていく人もいましたけど、ぼくは行き場所がないから最後までおったんです。

あのときは、市の追い出しに反対するために、いっぱい人來ましたね。ぼくは、どうせ追い出されると思ってました。だけど、やっぱりぼくらのために抗議のためにいっぱい人が集まって来てくれてる。みんなにこうして支えられて公園に4年間おらしてもらったから、最後は一緒に抗議をやろうかなというかんじだった。

（生田）一生懸命に生きてきて、居場所が公園しかなくなってしまったのに、それを追い出そうとするのはおかしいと思います。同じように考えた人たちが、「追い出し」に抗議しようとして集まりました。このとき、ぼくや、ぼくの知り合いの大勢の人たちが、この抗議の座り込みをしていました。新聞記事には、この時のようすが出ています。

長居公園にいた人は、他の公園に行ったりしました。ぼくは、西成公園で空いてる小屋があるから何人かは受け入れられるっていう話がきて、ここに来ました。

今もアルミ缶集めに行ってます。それから、知り合いの人にたまに人が足りないときに日雇いの仕事によんでもらったりとかもあります。日雇いの仕事がいっぱいあるときは、月に4万円ぐらいかせげるときもあるけど、少ないときなんか月に1万円ぐらいで生活してる。ぼくは昔から、貧乏は貧乏なりになんとかやっていく知恵がありますから。そこにスーパーがあるんですけど、20円でコシのあるええうどんが売ってるんですよ。それとピーナツ食べたりとか。だから、そんなにお金使わなくてもなんとか生命だけは維持していける。2〜3万円あったらぼくは「御の字」（だいじょうぶ）ですけどね（笑）。この3か月ぐらいずっと毎月1万円ちょっとでやっていますよ。

一昨年、9月ぐらいから3か月ぐらい、带状疱疹という、ウィルスのせいで体中にじんましんみたいなものができる病気にかかって全然治らなくて、それが今まで味わったことのない痛みでね。あのときは小屋のなかにずっといて、もう1か月3000円とか4000円とかで暮らしましたよ。病院は医療費かかるじゃないですか。

ぼくなんかね、あんまり体丈夫じゃないからね、アルミ缶集めも結構つらいんですよ。それでもがんばって、少ないお金で生活してるわけです。だから、これからは「安定した仕事に就けへんやつは怠け者や」とかそういうことを言うんじゃないしに、ちゃんと一応少ないけど自分で稼いでますよ、というそういう人も尊重しましょうっていう社会にしていけないと、もうこれからはやっていかれへんのちゃうかなと思っています。

（生田）坂本さんのおいたちや野宿生活を聞いて、どう思いましたか？

野宿をするようになるきっかけ、そして野宿の生活のようすも、人によってさまざまです。野宿している人が100人いれば、100通りの生活があります。一人の話を聞いて、すべてがわかることはありませんが、こうして一人の人のおいたちや生活のようすを知ってもらうことは、とても大切だと思います。